

童

2023年2月28日。

結果的には、暖冬です。2月も終わりを迎え、大地は、白から黒へと変わっていきます。お日様も暖かさを増し、朝明るくなるのも早くなり、夕方は、6時前まで明るくなっています。一面雪世界で、雪に埋もれて遊んだ時は、三回から四回ほどだったかもしれません。大地の除雪車の出勤回数を見れば、そんな感じでした。

それでも、子どもたちの顔の黒さを見れば、この短い雪の期間の中でも、たっぷり雪遊びを楽しんだ事がわかります。雪の少ない地方に暮らす子どもたちに比べて、こんな世界を味わえる子どもたちは幸せでしょう。

なんと言っても、小さい子どもたちにとっての一番人気は、裏山でのお尻滑り。大地の地形を十分生かしての遊びです。平坦な園庭ではできない遊び。しかも、小さな築山ではなく、木立の間を滑っていくまるで絵本のような世界です。この姿と林にこだまする子どもたちの歓声が合わさると、なんとも言えない平和な気持ちになります。良くも飽きもせず、何度も何度も登っては滑りを繰り返す子どもたち。その魅力は大人では感じきれない子どもたちの感性の賜でしょう。

大きい子どもたちも、もちろんお尻滑りは大好きですが、やはり魅力は 大地のクロカンと言うより、バックカントリー冒険スキーでしょうか。平坦な場所をゆっくり歩く（滑る）ことはもちろん、丘の上につた大地から出かけるには、どうしても斜面を下らなければならないだけに、自然に滑り降りる楽しさに向き合います。こちら、大歓声をあげながら尻餅連続で降りていく子どもたち。転ぶ毎に笑顔が溢れます。その勢いで、崖や溝をわざわざ降りたり、土手や丘をよじ登ったり。時には、見晴らしの良い畑を 100 ほど下ったり。里山の地形を十分楽しめる遊びです。

午前中は、月曜日を除き、9時半から12時までは、どんな天候にもかかわらず、外でたっぷり雪で遊びます。吹雪でも氷点下でも朝から子どもたちが野外で過ごしている事は、実は凄いいことです。休日でも、御家庭でそんなことはしていませんか。そして、午後は 必ず室内で過ごす という規則正しいリズムある生活が大地です。

今年は雪解けが早そうです。残り少ない雪（年々少なくなるでしょう）の世界をギリギリまで楽しみます。



【鏡池】

還暦を過ぎても、嬉しいことがあると数時間前からそわそわして目が必ず覚めてしまいます。我ながら、子どもだなと思いますが。特に、朝早い出発などは特にそうです。これは、登山や旅などで早立ちの素晴らしさを経験したこともあります。なんと言ってもうれしさ楽しさを待ちきれない性分かもしれません。

先日の子どもたちとの戸隠鏡池クロカン。一週間前から天気を読み、この日に賭けると言う意気込み。もちろん、前夜から星空を見ながらワクワクして、当然の如く2時前には起床。身体も精神も高揚してバッチリ。まだ集合まで二時間近くあるのに、そわそわしながら、珈琲を沸かして準備。と言っても、前夜のうちに全て用意してあるので、ギリギリにカレーをポットに入れるまで特に仕事なし。ヨガをしたり星空を見たりしてワクワクしていました。

4時前にはガー君が来て、一緒にカレーを入れて、4時15分過ぎには駐車場へ。満点の星と暗闇のなかには、既に、3、4台の車の影。この時間帯に子どもの姿があるなんて、何て面白いのだろう。まさに異次元の世界へ、海外旅行へ旅立つ朝のような気配です。気分は高揚しますね。そして、子どもの顔をいったら、眠気なんて感じられず、まさにいつも以上に笑顔バッチリ、声も張りがあります。

4時半出発。途中、道路の気温はマイナス15度。快晴だけに凄いい冷え込みです。5時15分。出発地点に到着。ヘッドライトを照らしながら、大地のクロカンとかわりなく、リュックを背負い、自分でクロカンを履いて出発準備。この間、5分足らず。大人でもこんなスムーズに出発準備はできません。

1を軽く超す真っ白な世界。物音一つしない静寂。暗闇。満点の星。マイナス15度を超す冷え込み。ここは、どんな世界だろうと思うほどの世界に、ヘッドライトの明かりが続いていく光景。白い雪の中に吸い込まれていく子どもたちの姿。一体どうの世界へ旅立っていくのだろう。とそのたくましい後ろ姿を見ながら、思わず涙ぐんでしまいました。

単独でオーストラリアの砂漠を旅していたり、アルプスの山々を登っていたりした自分を見ているようでした。そんな感傷的な気分を全く知らない子どもたちは、ドンドン登っていき、追いつくことができません。一番後ろから 後方支援で皆の後ろを追いかけていきました。

6時前には、東方面の木立の隙間から 空が明るくなってきているのが見えました。それでもまだ闇夜です。6時過ぎには、今度は右木立の奥に、朝焼けが見え隠れしてきました。朝のドラマの始まりです。まだまだ闇を進むと、空に大きな屏風のようなものが浮かび上がりました。子どもたちは 怖いとかあれは何だろうとか言い始めました。大人も、何か映画のスクリーンを見ているように見つめます。青ちゃんも、まるで大きな化け物が空一面から襲い被さってくるように本気で怖くなりました。何と、それは 真っ白な戸隠連峰だったのです。初めての体験でした。まさに神秘的な光景でした。今まで見たことが無い光景で心が震え、本当に こんな素晴らしい光景に出会えて、感謝感激幸せでした。本当に来て良かった、こんなに幸せでいいのだろうか、子どもたちに感謝の瞬間でした。

6時20分待望の鏡池着。真っ白な平原、その奥に連なる戸隠連峰。子どもたちは、斜面から何度も何度も鏡池と戸隠を目指して滑り降りて行きます。たぶん気温はマイナス15度以下だけに、動いていることが必要です。大地のクロカンと同じように、ひたすら子どもたちは大地にいるように滑りまくっています。大人は、山々を見ながら、スコップで朝食用の素晴らしいカウンター席を作り、いよいよ朝食。マイナスの極寒で食べる朝食。リュックや袋は凍ってファスナー等は開かず、持参した水もその場で凍る冷え込みの中、手袋をしたまま保温ポットのカレーを掻き込みます。まさに生きる為に食うと言う感じですが、皆 笑顔で余裕の朝食。日頃の鍛錬の賜でしょう。まさに、たくましい。

朝食後、すぐにスキーを履いて再び鏡池へ。広大な雪野原に子どもたちの姿は美しいです。そして、7時半過ぎ。誰かが、あの山の端が赤くなってきているという声。そうです、待望のモルゲンロートが始まったのです。そして、皆連峰にむかって走り出しました。そして、その場で立ちすくみました。自然のドラマが始まったからです。これほど見事なモルゲンロートは、青ちゃんも初めてです。まさに息を飲む美しさ。たぶん 後にも先にもこれほどの美しさに出会うことはないだろうと思えた瞬間でした。世界に 地球に感謝、そして 畏敬の念を表さずにいけない瞬間でした。ありがとう大地 ありがとう戸隠 ありがとう世界 ありがとう地球 と唱えた時でした。一時間ほど、そんな世界に浸りながら遊び、8時過ぎには、太陽が池面を照らしはじめ、これまた明るい美しいまぶしい世界となりました。子どもたちの笑顔もいっそう輝き、いよいよ躍動的な世界の開始でした。

白い雪面に、色とりどりのお菓子やおやつが並び、さっきまでの寒さがドンドン退いて、代わりにお日様の暖かさが流れ込んできます。いつもの世界に戻ってきたような気分。帰りは、林の中を、登ったり降りたりしながらの樹林帯ハイキングをたっぷり楽しみ、11時過ぎには、皆 顔を真っ赤にして汗びっしょりで無事帰還。

まさに、世界旅行 タイムトリップを終えた旅でした。非日常 美日常の世界でした。まさに旅、日付変更線を越えて、カナダやアラスカに旅してきたと全く同等以上の旅でした。こんな旅に付き合ってくれてありがとう と子どもたちに感謝の一時でした。

私たちの想像力と行動力と時間のちょっとした工夫だけで、非日常 美日常の旅を子どもたちと楽しむ事ができます。大地は、そんな旅の旅行代理店でありたいと思っています。おかしなツアコンも数々常駐しています。

